

特別支援教育のための実態把握チェックシート【中学校・高等学校】

香川県教育委員会事務局特別支援教育課

このチェックシートは、校内で気になる生徒について、学習面・行動面・対人関係等の実態を把握し、一人一人の教育的ニーズに応じた支援を検討するために活用するものです。質問項目は、文部科学省が実施した「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」の項目を基に作成しています。

基準	学習面	(1)～(3)、(5)	12 ポイント以上	行動面	(7)(8)	6 ポイント以上
		(4)(6)	15 ポイント以上	対人関係	(9)	22 ポイント以上

この基準に該当する場合には、特別な教育的支援を必要としている可能性を踏まえ、校内委員会等で支援の在り方を協議するとともに、保護者や関係機関と連携することが必要です。把握した実態や本人・保護者の願いを基に、必要に応じて「個別的教育支援計画」や「個別の指導計画」を作成し、最適な支援につなげましょう。なお基準に該当しない場合でも、一人一人の困難さや教育的ニーズに応じた支援を行うことが大切です。

(1) 聞く (チェック: 0=ない、1=まれにある、2=ときどきある、3=よくある)

1	聞き間違いがある。(「知った」を「行った」と聞き間違える)	0	1	2	3
2	聞きもらしがある。	0	1	2	3
3	個別に言われると聞き取れるが、集団場面では難しい。	0	1	2	3
4	指示の理解が難しい。	0	1	2	3
5	話し合いが難しい。(話し合いの流れが理解できず、ついていけない)	0	1	2	3
合計ポイント					

(2) 話す (チェック: 0=ない、1=まれにある、2=ときどきある、3=よくある)

1	適切な速さで話すことが難しい。(たどたどしく話す。とても早口である)	0	1	2	3
2	ことばにつまったりする。	0	1	2	3
3	単語を羅列したり、短い文で内容的に乏しい話をする。	0	1	2	3
4	思いつくままに話すなど、筋道の通った話をするのが難しい。	0	1	2	3
5	内容をわかりやすく伝えることが難しい。	0	1	2	3
合計ポイント					

(3) 読む (チェック: 0=ない、1=まれにある、2=ときどきある、3=よくある)

1	初めて出てきた語や、普段あまり使わない語などを読み間違える。	0	1	2	3
2	文章を理解するのに何度も読み返す。	0	1	2	3
3	音読が遅い。	0	1	2	3
4	文章を読むことはできるが、内容が頭に入らない。	0	1	2	3
5	文章の要点を正しく読みとることが難しい。	0	1	2	3
合計ポイント					

(4) 書く (チェック: 0=ない、1=まれにある、2=ときどきある、3=よくある)

1	読みにくい字を書く。(字の形や大きさが整っていない。まっすぐ書けない)	0	1	2	3
2	文字を書く際、漢字をあまり使わない。	0	1	2	3
3	漢字の細かい部分を書き間違える。	0	1	2	3
4	文法的な誤りが目立つ。(主語と述語が対応していない、順序がおかしいなど)	0	1	2	3
5	限られた量の作文や、決まったパターンの文章しか書かない。	0	1	2	3
6	思いつくまま書き、筋道の通った文章を書くことができない。	0	1	2	3
合計ポイント					

(5) 計算する (チェック: 0=ない、1=まれにある、2=ときどきある、3=よくある)

1	数の表記が正確にできない。(三千四十七を 300047 や 347 と書くなど)	0	1	2	3
2	簡単な数(6+8=14、15-7=8など、九九の範囲の計算)の暗算が素早くできない。	0	1	2	3
3	四則の混合した式などを正しい順序で計算できない。	0	1	2	3
4	文字や記号(x、y、πなど)を使った計算ができない。	0	1	2	3
5	一次方程式が解けない。	0	1	2	3
合計ポイント					

(6) 推論する (チェック: 0=ない、1=まれにある、2=ときどきある、3=よくある)

1	数の量的な面が理解できない。(数直線の見え方が分からない、分数の大きさが分からないなど)	0	1	2	3
2	幾つかの事象から数学的な法則が見つけられない。(数字の並び、表やグラフの変化から先を予測できないなど)	0	1	2	3
3	文章題の解き方の方針(求め方)や立式が分からない。	0	1	2	3
4	基本的な公式や定理を示されても、それに当てはめて答えを求めていくことができない。	0	1	2	3
5	類似点・相違点を見つけれない。(図形の性質や問題の解き方などの似ているところ、違うところが分からないなど)	0	1	2	3
6	得られた答えが、日常ではあり得ない状況でも変だと思わない。	0	1	2	3
合計ポイント					

(7)「不注意」 * 得点換算方法 0と1=0点 2と3=1点

(チェック:0=ない、もしくはほとんどない 1=ときどきある、2=しばしばある、3=非常にしばしばある)

1	学業において、綿密に注意することができない、または不注意な間違いをする。	0	1	2	3
2	課題または遊びの活動で注意を集中し続けることが難しい。	0	1	2	3
3	直接話しかけられたときに聞いてないように見える。	0	1	2	3
4	指示に従えず、課題や任務をやり遂げることができない。	0	1	2	3
5	課題や活動を順序だてることが難しい。	0	1	2	3
6	(学業や宿題のような)精神的努力の持続を要する課題を避ける。	0	1	2	3
7	課題や活動に必要な物をなくしてしまう。	0	1	2	3
8	気が散りやすい。	0	1	2	3
9	日々の活動で忘れっぽい。	0	1	2	3
合計ポイント					

(8)「多動性－衝動性」* 得点換算方法 0と1=0点 2と3=1点

(チェック:0=ない、もしくはほとんどない 1=ときどきある、2=しばしばある、3=非常にしばしばある)

1	手足をそわそわと動かし、またはいすの上でもじもじする。	0	1	2	3
2	教室や、その他、座っていることを要求される状況で席を離れる。	0	1	2	3
3	不適切な状況で、余計に走り回ったり高い所へ上ったりする。	0	1	2	3
4	静かに遊んだり、余暇活動につくことができない。	0	1	2	3
5	「じっとしていない」、またはまるで「エンジンで動かされているように」行動する。	0	1	2	3
6	しゃべりすぎる。	0	1	2	3
7	質問が終わる前に出し抜けに答え始めてしまう。	0	1	2	3
8	順番を待つことが難しい。	0	1	2	3
9	他人を妨害したり、邪魔をする。	0	1	2	3
合計ポイント					

(9)「対人関係やこだわり等」

(同じ学年の生徒と比べて、特に目立つかどうかで考え、チェック:0=いいえ、1=多少、2=はい)

1	大人びている。ませている。	0	1	2
2	みんなから、「〇〇博士」「〇〇教授」と思われている。(例:カレンダー博士)	0	1	2
3	他の子供は興味をもたないようなことに興味があり、「自分だけの知識世界」を持っている。	0	1	2
4	特定の分野の知識を蓄えているが、丸暗記であり、意味をきちんと理解していない。	0	1	2
5	含みのある言葉や嫌みを言われても分からず、言葉通りに受けとめてしまうことがある。	0	1	2
6	会話の仕方が形式的であり、抑揚なく話したり、間合いが取れなかったりすることがある。	0	1	2
7	言葉を組み合わせ、自分だけにしか分からないような造語を作る。	0	1	2
8	独特な声で話すことがある。	0	1	2
9	誰かに何かを伝える目的がなくても、場面に関係なく声を出す。(例:唇を鳴らす、咳払い、喉を鳴らす、叫ぶ)	0	1	2
10	とても得意なことがある一方で、極端に不得手なものがある。	0	1	2
11	いろいろな事を話すが、その時の場面や相手の感情や立場を理解しない。	0	1	2
12	共感性が乏しい。	0	1	2
13	周りの人が困惑するようなことも、配慮しないで言うてしまう。	0	1	2
14	独特な目つきをすることがある。	0	1	2
15	友達と仲良くしたいという気持ちはあるけれど、友達関係をうまく築けない。	0	1	2
16	友達のそばにはいるが、一人で遊んでいる。	0	1	2
17	仲の良い友人がいない。	0	1	2
18	常識が乏しい。	0	1	2
19	球技やゲームをする時、仲間と協力することに考えが及ばない。	0	1	2
20	動作やジェスチャーが不器用で、ぎこちないことがある。	0	1	2
21	意図的でなく、顔や体を動かすことがある。	0	1	2
22	ある行動や考えに強くこだわることによって、簡単な日常の活動ができなくなることがある。	0	1	2
23	自分なりの独特な日課や手順があり、変更や変化を嫌がる。	0	1	2
24	特定の物に執着がある。	0	1	2
25	他の子どもたちから、いじめられることがある。	0	1	2
26	独特な表情をしていることがある。	0	1	2
27	独特な姿勢をしていることがある。	0	1	2
合計ポイント				

※このチェックシートは、教員の「気付き」から学校全体での支援につなげることを目的として作成したものです。特定の障害の診断や在籍学級等を判断するものではありません。